

令和7年度

「運営に関する計画」

大阪市立姫島小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

注：令和4年度に設定。その後、年度ごとの状況をみて数値については必要に応じて修正

現状と課題

- 日々の学校生活の土台となる、落ち着いた校内環境と学習規律を維持することができている。常にリスクはあることを共有して学校運営を進め、この状況を維持する。
- いじめが多発する状況にはない。また認知したいじめ事案は、すべて「解消」している。いじめについても、常にリスクはあることを共有して学校運営を進め、この状況を維持する。(「解消」の定義は「年度目標」に記載。)
- 不登校は常に一定数おり、また、その対処の糸口がつかみづらい状況にある。
- 学力調査数値は、概要として、大阪市平均をやや下回る状況である。継続して向上を図る。
- 体力調査数値も、概要として、大阪市平均をやや下回る状況である。継続して向上を図る。
- ICTの有効な活用に向けて組織的な取組を進めることができている。さらに効果的な活用を図る。
- 教職員の時間外勤務状況は大阪市平均の数値を下回ることができている。より改善を図るが、学校の工夫と意識変革だけでは対処できない問題でもある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 1：令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を全学年平均85%以上にする。(R6=80% R7=82.5%)
- 2：令和7年度の校内調査において不登校児童の在籍比率を令和5年度より減少させる。
- 3：令和7年度の校内調査において前年度不登校児童の「改善」を全員について実現する。
注：「改善」は次の状態とする
 - 出席日数(出席認定を含む)の増
 - ICTの活用による本人・保護者と学校がつながる回数の増
 - 養護教諭・スクールカウンセラー・学校支援センターなど、学校内外の専門的な指導・相談につながる回数の増。
- 4：令和7年度 学校アンケートの「学校に行くのが楽しい」「子どもは楽しく学校に通っている」への肯定的回答率を児童・保護者とも全学年平均85%以上にする。
(R6=児童74% 保護者86% R7=児童92% 保護者87.2%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 1：令和7年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。(R6=36% R7=32.9%)
- 2：令和7年度小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度以上の数値という結果を、令和4年度から4年間継続する。

- 3：令和7年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。（R6=81% R7=78%）
- 4：令和7年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。（R6=67% R7=64%）
- 5：令和7年度小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80パーセント以上にする。（R6=74% R7=69%）

【学びを支える教育環境の充実】

《ICTの活用に関する目標》

- 1：校内視聴覚部が中心となって授業・家庭学習におけるICT活用の研究・研修を進め、令和7年度の学校アンケートにおいて、「先生がICT（児童に言葉の説明が必要）を使って授業を進めることで、授業がわかりやすくなる」に対する肯定的回答率を全学年平均85%以上にする。（R6=82% R7=84.3%）
- 2：校内視聴覚部が中心となって授業・家庭学習におけるICT活用の研究・研修を進め、令和7年度の学校アンケートにおいて、「自分たちがICT（児童に言葉の説明が必要）を使って授業や家庭学習を進めることで、授業や家庭学習がわかりやすくなる」に対する肯定的回答率を全学年平均80%以上にする。（R6=77% R7=81.2%）
- 3：校内生活指導部が中心となって、ICTを活用した児童の状況把握の研究・研修を進め、令和7年度の教員アンケートにおいて、「ICTを活用することで児童の状況把握がよりの確になった」に対する肯定的回答率を90%以上にする。（R6=93% R7=95%）

《教職員の働き方改革に関する目標》

- 4：「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を70%以上にする。（R6=65% R7=69%）

注：基準1＝1か月時間外勤務45時間以内 かつ 1年間時間外勤務360時間以内

基準2＝1年間時間外勤務時間720時間以内 かつ 1か月時間外勤務時間45時間を超える月が1年間6月以内 かつ 1か月時間外勤務時間100時間以内 かつ

連続する2か月の平均時間外勤務時間が80時間以内

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

1：小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を全学年平均 82%以上にする。(R6=80% R7=82.5%)

2：年度末の校内調査において、不登校児童の在籍率を前年度より減少させる。
(R6=1.41% R7=1.47%)

3：年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

注：「改善」は次の状態とする

■出席日数（出席認定を含む）の増

■ICTの活用による本人・保護者と学校がつながる回数の増

■養護教諭・スクールカウンセラー・学校支援センターなど、学校内外の専門的な指導・相談につながる回数の増。

4：令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、すべてを「解消」する。(R7に認知したいじめ事案はすべて「解消」)

注：「解消」は次の状態とする。(すべて and)

■一連の学校の指導により加害児童がいじめ行為と学校が認定した言動を続けていない。

■一連の学校の指導に対し、被害児童が一定の安心・納得を得て、長期欠席等に至らず通常の学校生活を送ることができている。

■一連の学校の指導・対応に、少なくとも被害側の保護者が納得をしている。

5：令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的回答率を全学年平均 90%以上にする。(R6=85% R7=86%)

■学校のきまりは、「廊下階段を歩行・右側通行」「チャイムを守る」「教室、廊下での過ごし方」の三点を重視して指導を行っていく。

6：校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を充実させ、令和7年度学校アンケートの「学校では、授業のほかにも、さまざまな体験で学ぶことができる」への肯定的回答率を全学年平均 87%以上にする。(R6=83% R7=84%)

7：防災・減災教育を計画的に実施し、令和7年度末学校アンケートの「防災・減災について学び、意識が高まった」(これまでは事後アンケート。今年度項目新設)への肯定的回答率を全学年平均 90%以上にする。(R6=88% R7=92%)

8：安全教育(不審者への対応・交通安全)を計画的に実施し、令和7年度末学校アンケートの「安全に過ごすことについて学び、意識が高まった」(今年度項目新設)への肯定的回答率を全学年平均 90%以上にする。(R6=91% R7=94%)

★令和7年度 学校アンケートの「学校に行くのが楽しい」「子どもは楽しく学校に通っている」への肯定的回答率を児童・保護者 80%以上にする。

(R6児童 74% 保護者 86% R7児童 92% 保護者 87%)

注：この目標は総合的な視点で設定するものなので取組実施の達成状況判断には含まない。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

1：小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を全学年平均 40%以上にする。(R6=36% R7=33%)

2：小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05P 向上させる。(以下 R7の対全国比)

国語：3年 1.01 4年 0.97=0.02↑ 5年 0.99=0.01↑ 6年 0.98=0→

- 3：小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を全学年平均82%以上にする。（R6＝81% R7＝78%）
- 4：小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を全学年平均64%以上にする。（R6＝67% R7＝64%）
- 5：健康教育の取組を進め、令和7年度 学校アンケートにおける「健康的・衛生的な生活に気をつけてすごそうと思う」に対する肯定的回答率を全学年平均90%以上にする。（R＝84% R7＝87%）

【学びを支える教育環境の充実】

教育 DX の推進《ICTの活用に関する目標》

- 1：授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の75%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事 ICT 活用が適さない日数を除く）

R712時点＝88.9%

- 2：令和7年度文部科学省「リーディング DX スクール事業」に協力校として参画し、学習者端末とクラウド環境を特別感のないあたりまえの道具として毎日活用する。その結果として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。（外部講師を招いた授業や研修を少なくとも1回行う）
- 3：校内視聴覚部が中心となって授業・家庭学習における ICT 活用の研究・研修を進め、令和7年度末の学校アンケートにおいて、「先生がICT（児童に言葉の説明が必要）を使って授業を進めることで、授業がわかりやすくなる」に対する肯定的回答率を全学年平均88%以上にする。（R6＝82% R7＝84%）
- 4：校内視聴覚部が中心となって授業・家庭学習における ICT 活用の研究・研修を進め、令和7年度末の学校アンケートにおいて、「自分たちがICT（児童に言葉の説明が必要）を使って授業や家庭学習を進めることで、授業や家庭学習がわかりやすくなる」に対する肯定的回答率を全学年平均84%以上にする。（R6＝77% R7＝81%）
- 5：校内生活指導部が中心となって、ICT を活用した児童の状況把握の研究・研修を進め、令和7年度末の教員アンケートにおいて、「ICT を活用することで児童の状況把握がよりの確になった」に対する肯定的回答率を90%以上にする。（R6＝93% R7＝95%）
- 6：令和7年度 学校アンケートで、「学校は、学校の様子や情報をHPなどで適宜、発信している」への保護者の肯定的回答率を全学年平均85%以上にする。（R6＝79% R7＝86%）

- 7：令和7年度 学校アンケートで、「姫島地域の行事に参加したり、姫島地域の人とともに学んだり・活動したり、姫島地域の人に見守られたりして、よかったと思う」に対する肯定的回答率を全学年平均84%以上にする。（R6＝81% R7＝83%）

人材の確保・育成としなやかな組織づくり《教職員の働き方改革に関する目標》

- 8：「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を68%以上にする。（R6＝65% R7＝69%）

注：基準1＝1か月時間外勤務45時間以内 かつ 1年間時間外勤務360時間以内

基準2＝1年間時間外勤務時間720時間以内 かつ 1か月時間外勤務時間45時間を超える月が1年間6月以内 かつ 1か月時間外勤務時間100時間以内 かつ

連続する2か月の平均時間外勤務時間が80時間以内

3 本年度の自己評価結果の総括

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に最重要目標として定められた3分野のうち、この分野で必要なことは、適切な生活指導を中心とした「心の醸成（ゆっくりと時間をかけて育むこと）」に関わる教育活動の立案・実行・改善であると考えている。

より詳しく整理すると---

- いじめ・暴力行為等、問題行動の未然防止と解決
- 不登校児童の状況改善
- 規範意識・道徳心・人権意識等の社会生活を営むうえでの土台となる心を育てること
- 多様な体験で、心をより広く・より豊かに育てること
- 喫緊の課題として、防災・減災についての知識を持たせ、必要な考え・意識を育てること
- 不審者対応・交通安全についても知識を持たせ、必要な考え・意識を育てること

---これらにつながる教育活動を、教育活動全体の一部ではあるが、立案・実行している。

設定した数値目標・その達成に向けて立案した8つの取組の達成・進捗状況と改善点については後述するが、全体として、立案した取組はおおむね実行できていて、子どもたちはおおむね落ち着いたようすで日々の学校生活を送ることができている。また、おおむね保護者の信頼も得ることができている。とくに、7の防災・減災教育、8の安全教育については数値が上がり、意識が高まっていることがわかった。

この分野の取組の総合的な結果として、子どもたちが「学校に行くのが楽しい」と感じること・保護者が「子どもは楽しく学校に通っている」と感じることを最終的な目標にしている。アンケートの回答項目で4問中3問が肯定的な回答になっている。そのうえで肯定的な回答は児童92% 保護者87%ととても高くなり成果を感じている。回答項目については、来年度に向けて改善を図る予定である。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に最重要目標として定められた3分野のうち、この分野で必要なことは、適切な学習指導を中心とした「学力・体力の向上」に関わる教育活動の立案・実行・改善であると考えている。

より詳しく整理すると---

- 教員の指導力（授業力）を向上させること
- 日々の授業およびそれにプラスして子どもたちの学力向上・体力向上に結びつくさまざまな活動を工夫すること
- 学習の土台となる健康な生活習慣を身につかせること

---これらにつながる教育活動を、教育活動全体の一部ではあるが、立案・実行している。

設定した数値目標・その達成に向けて立案した5つの取組の達成・進捗状況と改善点については後述するが、全体として、立案した取組について、数値はなかなか上がらなかったが、おおむね実行できていると考える。教員は校内研究活動や校内研修を軸に授業力の向上に取り組み、学力向上・体力向上に結びつくさまざまな活動の工夫にも前向きである。そして、子どもたちはおおむね意欲的に日々の学習活動をおこなうことができている。また、健康的な生活習慣については高い意識を持たせることができている。

学力向上・体力向上はさまざまな複合的な要素が絡み合っているもので即効性のある結果にはならないと考えてはいるが、数値目標の検証資料となる学力経年調査の結果は、わずかに取組の成果を実感できる数値結果を得ることができた。これを励みにして、今後も継続して学力向上の取組を進めていきたい。

今年度については、4以外は十分な数値結果として表れなかった。しかし、学校にできること・学校がするべきことは、学力向上・体力向上に結びつくと考えられる取組をより充実させて確実に粘り強く継続していくことだと考えるので、そういう観点では、そのような取組を計画どおりに進められていたことを肯定して評価したい。

3 本年度の自己評価結果の総括つづき

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に最重要目標として定められた3分野のうち、この分野は、上記2つの分野の取組を意欲的に進めて成果をあげていくために、その土台となる周辺環境の充実に意識して取り組んでいくためのものであると理解している。

より詳しく整理すると---

- 社会の変化を背景に学校教育におけるICT活用を推進すること
 - 教育活動の担い手である教員の健康と意欲の保持増進、さらには今後の人材確保のためにも、教員の働き方改革を推進すること
 - 家庭・地域と連携・協働した教育活動を推進すること
 - その連携・協働を深めるためにも、情報発信を充実させて、学校への理解を深めること
- これらにつながる目標を定め、5つの取組を立案・実行している。

設定した数値目標・その達成に向けて立案した8つの取組の達成・進捗状況と改善点については後述するが、全体として、立案した取組はおおむね実行できている。特に今年度は1の目標が全市共通目標として掲げられたが、本校としては目標数値を大きく上回る結果になっている。しかし、この分野においては、本校の数値が高いところからスタートしているため、数値結果は目標にわずかに届かない項目が多くなった。とくに、これらのうちの教員の働き方改革に関する目標と取組についても、前年度よりは上がってはいるものの目標数値をわずかに下回る結果になった。勤務時間削減の意識は年々高まってはいるが、教育活動を充実させるためには教員の業務量は必然的に増加する。これを効率化でカバーすることには限界がある。学校が努力することも必要ではあるが、それと同時に教員定数の大幅な見直しなど抜本的な対策が進むことを切実に願う。

この大阪市教育振興基本計画の目標は今年度で一旦、終結する。来年度からの新しい大阪市教育振興基本計画の目標が提示されたあとに、これまでの取組の継続も視野に入れ、本校の実態に合わせた目標数値と取組内容を設定していきたい。

(様式2)

大阪市立姫島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>1: 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を全学年平均で82%以上にする。(R5=77% R6=80%) R7=83%○</p> <p>2: 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R5=0.94% R6=1.41%) R7=1.47% (6/408人) ×</p> <p>3: 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の「改善」を全員について実現する。(程度はさまざまだが、R7=(4人)について「改善」傾向 △)</p> <p>注: 「改善」は次の状態とする(すべて or)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■出席日数(出席認定を含む)の増 ■ICTの活用による本人・保護者と学校がつながる回数の増 ■養護教諭・スクールカウンセラー・学校支援センターなど、学校内外の専門的な指導・相談につながる回数の増。 	B

<p>4：令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、すべてを「解消」する。 R7に認知したいじめ事案はすべて「解消」 O</p> <p>注：「解消」は次の状態とする。（すべて and）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■一連の学校の指導により加害児童がいじめ行為と学校が認定した言動を続けていない。 ■一連の学校の指導に対し、被害児童が一定の安心・納得を得て、長期欠席等に至らず通常の学校生活を送ることができている。 ■一連の学校の指導・対応に、少なくとも被害側の保護者が納得をしている。 <p>5：令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的回答率を全学年平均 93%以上にする。</p> <p>(R5=93% R6=85%) R7=86% Δ</p> <p>6：校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を充実させ、令和7年度学校アンケートの「学校では、授業のほかにも、さまざまな体験で学ぶことができる」への肯定的回答率を全学年平均 87%以上にする。</p> <p>(R5=86% R6=83%) R7=84% Δ</p> <p>7：防災・減災教育を計画的に実施し、令和7年度末学校アンケートの「防災・減災について学び、意識が高まった」への肯定的回答率を全学年平均 90%以上にする。</p> <p>(R5=89% R6=88%) R7=92% O</p> <p>8：安全教育（不審者への対応・交通安全）を計画的に実施し、令和7年度末学校アンケートの「安全に過ごすことについて学び、意識が高まった」への肯定的回答率を全学年平均90%以上にする。 (R6=91%) R7=94% O</p> <p>★令和7年度 学校アンケートの「学校に行くのが楽しい」「子どもは楽しく学校に通っている」への肯定的回答率を児童・保護者とも 85%以上にする。</p> <p>(児童 R6=74% R7=92% 保護者 R6=86% R7=87%)</p> <p>注：この目標は総合的な視点で設定するものなので取組実施の達成状況判断には含めない。</p> <p>※1～8の目標数値を、わずかに下回る程度のほぼ達成したと判断してもよい数値を含め、半数以上＝4つ以上達成で達成状況 B、3/4以上＝6つ以上達成で達成状況 A として自己評価する。それが妥当な評価であるかは、最終的に学校関係者評価に委ねる。</p>	
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容1【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「いじめについて考える日」を各学期に設定し、校長講話⇒担任講話にとどまらず、年に1回以上、児童会や代表委員会の活動⇒学級での「考える機会」を立案し実施する。また、全校で一貫した生活指導をおこない、年に1回以上、児童会・代表委員会の活動⇒学級での「考える機会」を立案し実施する。（きまりを自ら守り規範意識を互いに高める姿勢の育成。）</p>	B
<p>指標 上記取組を実施する。=B そのうえで目標1・5を達成する。=A</p>	
<p>取組内容2【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>月に1度の「スクリーニング会議1（生活指導上の児童の状況・情報交換）」において、不登校傾向児童の情報を確実に共有し、スクールカウンセラー・区の子サポネット SSW と連携した組織的な初期対応につなげる。担任・学年対応にとどまらない。</p>	B
<p>指標 上記取組を実施する。=B そのうえで目標2・3を達成する。=A</p>	

<p>取組内容3【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 日常の児童観察を丁寧におこない、いじめの早期発見につなげる。疑わしい事案はすぐに管理職に報告し、月に1度あるいは臨時の「スクリーニング会議1（生活指導上の児童の状況・情報交換）」での情報共有を図る。いじめ対策委員会による組織的な早期対応をおこなう。</p>	B
<p>指標 上記取組を実施する。=B そのうえで目標4を達成する。=A</p>	
<p>取組内容4【基本的な方向2 豊かな心の育成】 児童費のほかに校長経営戦略支援予算も活用し、校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を充実させる。</p>	B
<p>指標 児童費で実施するものも含め、上記学習機会を、各学年で少なくとも複数回設定する。=B そのうえで目標6を達成する。=A</p>	
<p>取組内容5【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 火災に対する避難訓練・防災減災学習、地震と津波に対する引き渡し訓練・避難訓練・防災減災学習を少なくとも各1回ずつ設定して実施し、防災減災意識と防災減災知識の向上を図る。</p>	B
<p>指標 上記取組を実施する。=B そのうえで目標7を達成する。=A</p>	
<p>取組内容6【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 不審者の侵入に対する対応訓練、交通安全教育を少なくとも各1回ずつ設定して実施し、防犯交通安全意識と防犯交通安全知識の向上を図る。</p>	A
<p>指標 上記取組を実施する。=B そのうえで目標8を達成する。=A</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 児童会・代表委員会で今後実施予定。 ② スクリーニングシートは使わない。気になる児童についてや引継ぎのいるトラブルなどは、『いいところみつけ』に入力していく。 6年不登校の児童はいるが、関係機関とつながっていない。 ③ 3年でいじめ案件はあったが、いじめ対策委員会は開かれていない。 いじめ対策委員会は機能しているのか？ ④ 1・2年の経年テストの代わりにテストがなくなった。（校長戦略支援予算） ⑤ 計画通り実施できている。 ⑥ 交通安全指導は、今後実施予定。DVDをそれぞれ回していく。</p>	
<p>来年度に向けての改善点</p>	
<p>① ・いじめについて考える日週間に合わせて道徳教材を行うなどの工夫をすれば、代表委員会の負担が減るのではないか。 ・いじめ対策委員会で取り組んだことを、全体で共有することで同じような事案が起こった時の動き方につながる。 ・いじめ対策委員会の動き方・メンバーなど明確にし、その報告の仕方など学校で決めておくべき（4月案件で周知しては？） ② 不登校児童の在籍の比率の把握 いいところみつけの活用を毎月入力するのか、引継ぎ事項のみ記載するのか決めて実施する方がよい。</p>	
<p>※全体的に数値目標の見直しが必要と感じている学年が多い。</p>	

(様式2)

大阪市立姫島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>1：小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を全学年平均で40%以上にする。 (R5=35% R6=36%) R7=33% X</p> <p>2：小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。 <u>R7 3年1.01 4年0.97=0.02↑ 5年0.99=0.01↑ 6年0.98=0→△</u></p> <p>3：小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を全学年平均で82%以上にする。 (R5=81% R6=81%) R7=78% X</p> <p>4：小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を全学年平均で64%以上にする。(R5=62% R6=67%) R7=64% O</p> <p>5：健康教育の取組を進め、令和6年度 学校アンケートにおける「健康的・衛生的な生活に気をつけてすごそうと思う」に対する肯定的回答率を全学年平均90%以上にする。(今年度新設) R6=84% X R7=87% O</p> <p>※1～5の目標数値を、わずかに下回る程度のほぼ達成したと判断してもよい数値を含め、半数以上＝3つ以上達成で達成状況 B、3/4以上＝4つ以上達成で達成状況 A として自己評価する。それが妥当な評価であるかは、最終的に学校関係者評価に委ねる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容1【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>総合的読解力の向上を重点目標とする校内研究活動の取組、国語を重点教科とする基礎学力向上の取組の中に、話し合いを中心とした言語活動の効果的な実施方法についての研究・研修を含める。その成果を国語にとどまらず他の教科に意識的に取り入れる。</p> <p>指標 上記取組を実施する。＝B そのうえで目標1・2を達成する。＝A</p>	B
<p>取組内容2【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>校内英語部が主導して、短時間学習による「小学校低学年からの英語教育」の実施、C-NETの年間指導計画に基づく活用等、発達段階に応じた「児童と児童・児童と先生との、英語によるコミュニケーション」を推進する。「英語によるコミュニケーションは楽しい」と感じる活動機会を1つでも多く設定する。</p> <p>指標 上記取組を実施する。＝B そのうえで目標3を達成する。＝A</p>	B
取組内容3【基本的な方向5 健やかな体の育成】	

校内体育部が主導して、授業の中で「ゲーム的要素を取り入れるなど、楽しく体を動かせる活動」や授業および授業以外の「体力づくりの取組」を立案・実施し、発達段階や個に応じた負荷で適度に体を鍛えることの充実感・達成感を得る機会とする。	B
指標 上記取組を実施する。=B そのうえで目標4を達成する。=A	
取組内容4【基本的な方向5】 学校保健委員会の開催および強調習慣の設定により、健康的・衛生的な意識や生活習慣が身につくように指導・啓発する。	B
指標 上記取組を実施する。=B そのうえで目標5を達成する。=A	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①計画通り校内研究活動に取り組んでいる。学年の実態に応じて話し合いのレシピを活用したり、各教科で話し合いの機会を多くとったりすることができた。</p> <p>②計画的に実施することができた。(週に2回、朝学や昼学)</p> <p>C-NETの活用によって発達段階に応じて、英語によるコミュニケーションの学習をすることができた。</p> <p>③職員会議案件にて共有した運動好きになるスライドを活用した。各学年において主運動につながるゲームを取り入れることができた。取り組んだ内容を共有できると系統的に取り組んでいくことができる。</p> <p>③ 指標通り学校保健委員会を開催し、チャレンジカードを活用することができた。</p>	
次年度に向けての改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・実情を見定めたうえで数値目標を再設定する必要がある。 ・チャレンジカードの内容を学年の実態に応じて工夫していく必要がある。 	

(様式2)

大阪市立姫島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>教育DXの推進《ICTの活用に関する目標》</p> <p>1: 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の89.5%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事ICT活用が適さない日数を除く) (今年度新設) R6.12時点=89.5% O R7.12時点=88.9% Δ</p> <p>2: 令和6年度文部科学省「リーディングDXスクール事業」に参画し、学習者端末とクラウド環境を特別感のないあたりまえの道具として毎日活用する。その結果として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。(外部講師を招いた授業や研修を少なくとも1回行う) (今年度新設) 全市公開授業を1回実施 O</p> <p>3: 校内視聴覚部が中心となって授業・家庭学習におけるICT活用の研究・研修を進め、令和7年度末の学校アンケートにおいて、「先生がICT(児童に言葉の説明が必要)を</p>	B

<p>使って授業を進めることで、授業がわかりやすくなる」に対する肯定的回答率を全学年平均 85%以上にする。</p> <p>(R5=85% R6=85%) R7=84% △</p> <p>4：校内視聴覚部が中心となって授業・家庭学習における ICT 活用の研究・研修を進め、令和7年度末の学校アンケートにおいて、「自分たちが ICT(児童に言葉の説明が必要)を使って授業や家庭学習を進めることで、授業や家庭学習がわかりやすくなる」に対する肯定的回答率を全学年平均 80%以上にする。</p> <p>(R5=80% R6=77%) R7=81% ○</p> <p>5：校内生活指導部が中心となって、ICT を活用した児童の状況把握の研究・研修を進め、令和6年度末の教員アンケートにおいて、「ICT を活用することで児童の状況把握がよりの確になった」に対する肯定的回答率を 90%以上にする。</p> <p>(R4=90% R5 未実施) R7=95% ○</p> <p>6：令和7年度学校アンケートで、「学校の様子や情報が保護者に伝わっている」への保護者の肯定的回答率を全学年平均 85%以上にする。</p> <p>(R5=87% R6=79%) R7=86% ○</p> <p>7：令和7年度 学校アンケートで、「姫島地域の行事に参加したり、姫島地域の人とともに学んだり・活動したり、姫島地域の人に見守られたりして、よかったと思う」に対する肯定的回答率を全学年平均 84%以上にする。</p> <p>(R5=83% R6=81%) R7=83% △</p> <p>人材の確保・育成としなやかな組織づくり 《教職員の働き方改革に関する目標》</p> <p>8：「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を68%以上にする。</p> <p>(R5=65% R6=65%) R7=69% ○</p> <p>注：基準1＝1か月時間外勤務 45 時間以内 かつ 1年間時間外勤務 360 時間以内 基準2＝1年間時間外勤務時間 720 時間以内 かつ 1か月時間外勤務時間 45 時間を超える月が1年間6月以内 かつ 1か月時間外勤務時間 100 時間以内 かつ 連続する2か月の平均時間外勤務時間が 80 時間以内</p> <p>☆1～8の目標数値を、わずかに下回る程度のほぼ達成したと判断してもよい数値を含め、半数以上＝4つ以上達成で達成状況 B、3/4以上＝6つ以上達成で達成状況 A として自己評価する。それが妥当な評価であるかは、最終的に学校関係者評価に委ねる。</p>	
--	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容1【基本的な方向6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 校内視聴覚部が主導して、ICT 活用の研究・研修を実施する。そのことにより、教員においては毎日複数回・児童においては毎日少なくとも1回は学校生活の中で ICT 活用をおこなう。また、毎日少なくとも1回は児童の状況把握のために ICT を活用する。</p> <p>指標 上記取組を実施する。＝B そのうえで目標1・5を達成する。＝A</p>	B
<p>取組内容2【基本的な方向6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 校内視聴覚部と連携しつつ校内研究部が主導して、授業における ICT 活用の研究・研修を実施する。そのことにより、毎日少なくとも1回は、学習活動の場で ICT を活用できる校内状況をつくる。</p> <p>指標 上記取組を実施する。＝B そのうえで目標1・2・3・4を達成する。＝A</p>	B

<p>取組内容3【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■管理職が主導して、極端な業務負担の偏りが無い適材適所の組織編制をおこなう。 ■管理職が主導して、行事の実施・内容について再考し、精選に取り組む。 ■教員は、少なくとも学年所属単位・校務分掌単位で、さらにはその枠を超えて学校全体で、互いの業務状況を理解し、助け合い支えあいの意識をもって、日々の業務を遂行する。 ■校務支援 ICT を的確に活用するなどして、必要な情報共有を満たしつつ、会議の回数減・時間短縮に取り組む。 	B
<p>指標 上記取組を実施する。=B そのうえで目標8を達成する。=A</p>	
<p>取組内容4【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域と連携し(学校だよりや学校ホームページでの紹介等)、地域行事の活性化を図る。 ■地域からのゲストティーチャーを招いた学習活動、清掃活動などの地域との共同活動を立案して実施する。 ■見守り活動など学校を支える地域活動について児童に伝え、感謝の気持ちを醸成する。 	B
<p>指標 上記取組を実施する。=B そのうえで目標6・7を達成する。=A</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①教員の活用は進んでいる。チャットなどを通して、実践を共有するなどして今後も様々な活用方法を学んでいく。心の天気については、朝学などの時間に行った。</p> <p>②高学年を中心に1日1回以上端末を活用することができた。</p> <p>③業務の偏りや行事の精選などは懸案事項である。一部の教員に負担がかからないように配慮が必要である。教職員での情報共有については ICT の活用と対面の両方で行うことができた。</p> <p>④1年 昔遊び 2年 いのちの授業 3年 クリーンアップなど低学年を中心に地域の人との交流を図ることができた。姫島ハッピーフェスティバルでは、女性部と見守り隊の皆様を招待することができた。各学年、地域のゲストティーチャーを招いて学習することができた。見守り隊への感謝集会は地域への感謝の会と枠を広げ、実施することができた。4・5・6年生向けの地域の人と交流する取り組みを検討したい。</p>	
<p>次年度に向けての改善点</p>	
<p>情報共有については、チャットで共有されているが、それだけでは伝達にゆげがあることがあったので、引き続き ICT 活用と対面での連絡会も持つようにする。</p> <p>通知表 2 期制や特別校時を導入し、業務の精選を積極的に行った。業務の偏り改善や人材育成については、成果が見えにくい現状がある。さらに、しなやかな組織づくりを目指したい。</p>	